



最上川総合水防演習

東北最大規模の総合演習 19年ぶりに大石田町で開催

最上川総合水防演習が5月27日(日)に下河原運動公園で開催されました。これは国土交通省等が主催し、水害への意識を高めることを目的に毎年5月の水防月間にあわせて、東北6県の持ち回りで行われている東北最大規模の総合演習で、大石田町での開催は19年ぶりです。演習は、前日の夜から県南部に降り続いた大雨の影響で最上川の水位が上昇し、氾濫危険水位に近づいているという想定のもと、大石田町消防団のほか最上川中流域の10市町村の消防団、警察や消防、自衛隊、日本赤十字社など関係機関総勢約1,100名が、タイムラインに従って水防工法や応急救助など実践的な訓練を次々と展開しました。さらに、町内の自主防災会や大石田小学校の児童、トヨタライン(株)、ソーレ大石田、榎ヤマザワ、友好交流協定を結ぶ宮城県涌谷町、災害時応急協定を結ぶ加美町、大崎市も参加し、避難訓練や支援物資輸送訓練なども行われました。

また東北6県の代表が水防技術を競った東北水防技術競技大会には大石田町水防隊も参加し、日ごろの訓練の成果を披露しました。このほか会場では防災展も開催され、通信関係の企業や関係機関による展示のほか、降雨体験などのブースが設けられました。

